

学校評価シート（自己評価）

新田幼稚園

1、園の教育目標

学校教育法第 22 条に規定される目標達成に向け、幼稚園教育要領に定められた保育内容を遵守した保育に努める。

○ 知りたい気持ちを育む ○ 思いやりの心を育む ○ のびのび遊び体力を育む

2、具体的な目標や計画

- ・個々の子どもの実態をよく理解し、子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。職員間でしっかり共通理解をし、クラスにおいての成果と課題を報告する。
- ・幼稚園教諭として、子どもたちにとって教員が大きな環境であるということを意識して関わり、研修等にも進んで参加し、自己研鑽に励む。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
教育目標・指導計画 園の教育目標、教育課程を理解し、それを基に子どもの実態を踏まえて指導計画を立てている。	A	園の教育目標・教育課程を理解した上で、月案・週案・日案を立てている。学期ごとに検討し、子どもの実態に合わせて、修正や改善を行ってきているため。
園児理解 一人ひとりの子どもをよく理解し、子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	A	一人ひとりの個性を尊重し、心身の成長に繋がるように関わっている。必要に応じて園長や同僚に相談したり、保護者面談を行ったり、より理解が深められるようにしている。
教職員間の連携 子どものことについて各学年で話し合い、共通理解をし、クラスにおいての成果と課題を報告する。	A	幼児理解研修や学年会などを通して、子どもについての、共通理解を深め、どのような配慮や関わり方をしていくか、またその結果どのような成果を得られたのかを伝え合っている。
クラス運営 自己のクラスの運営を見直し、新たな課題に取り組んでいく。同時に自己研鑽に励み保育の質の向上に務める。	B	保育日誌をつけることで、クラスや子どもたちの様子を振り返り、自身のクラス運営や子どもたちとの関わり方についての見直しをし、日々の保育に生かすようにしている。また、研修に参加することで、自分の保育を見つめなおし、向上心を持つことができています。
教師の姿勢 幼稚園教諭として、子どもたちにとって教員が大きな環境であることを意識して関わる。	A	幼児期は生きる力の土台を作る大切な時期である事、子どもたちに影響を与える立ち場である事を常に意識して関わっている。

4 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A	結果としては、達成できているとする評価が出てはいるが、クラス運営や自己研鑽等においてはもちろんのこと、達成されているとする項目についても、より一層の取り組みをしていくことが必要であるとする。

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
クラス運営	自己のクラス運営をしっかりと見直し、新たな課題に取り組んでいく。同時に研修に進んで参加するなど自己研鑽に励み、更なる保育に質の向上に務める。
目標とねらいをもって保育する	目標とねらいをしっかりと持ち、そこに向けての過程を大切にしていく。
教職員の資質向上と共通意識	教育目標・教育課程・教育要領を念頭に置き、子どもたちが主体的に活動し、遊びがより充実するように保育環境や援助の在り方を話し合い、共通意識をもって保育に取り組む。